

令和2年度 入間市外国人市民を対象とした市民調査 回答集計

調査目的 この調査は、平成27年度の実施から5年が経過することに加え、令和4年度からはじめる「第6次入間市総合計画・後期基本計画」に新たな施策や事業に反映させることを目的とします。

調査対象 令和2年12月1日時点での入間市在住の満20歳以上の外国人男女個人

調査地域 入間市全域

標本数 500人

回答数割合 27.8%

前回調査 (H27年度) 26.3%

抽出方法 住民基本台帳による等間隔無作為抽出法

調査方法 郵送配付、郵送回収（返信用封筒を同封）

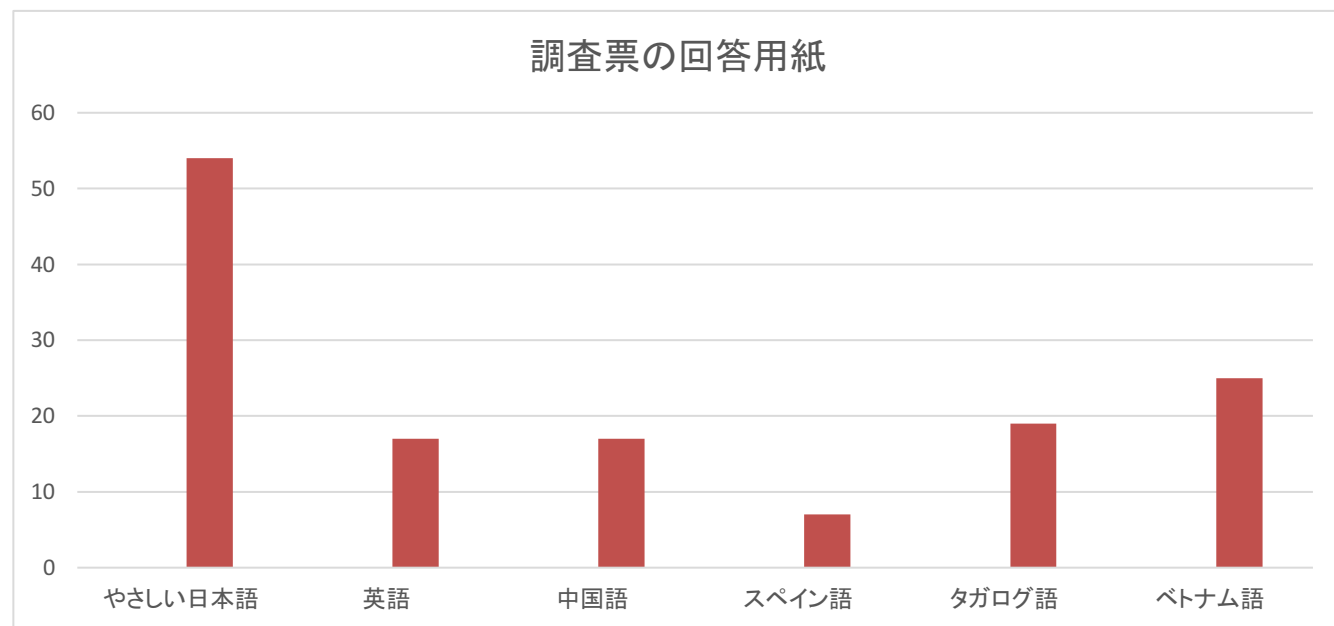
調査期間 令和3年1月6日（水）～令和3年1月31日（日）

調査票 ①やさしい日本語と外国語の2種類送付し、どちらか一方で回答
②選択式で一部記述式

調査項目

1. 基本事項

調査票	今回調査		前回調査 (H27年度)	
	回答数	割合	回答数	割合
1 やさしい日本語	54	38.8%	79	61.2%
2 英語	17	12.2%	27	20.9%
3 中国語	17	12.2%	12	9.3%
4 スペイン語	7	5.0%	3	2.3%
5 タガログ語	19	13.7%	4 (ポルトガル語)	3.1%
6 ベトナム語	25	18.0%	4 (韓国語)	3.1%
計	139	100.0%	129	100.0%

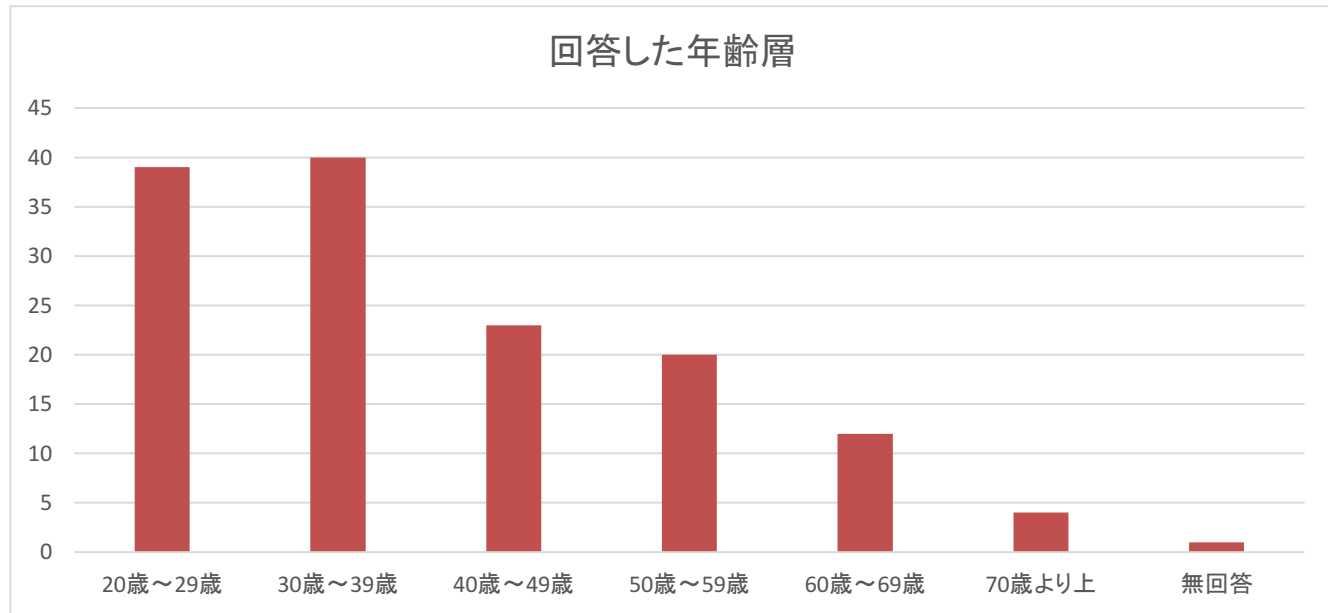


今調査では、外国人市民の国籍別割合に応じて抽出した5言語での調査票を作成し、調査対象の約70%の出身国言語に対応しましたが、その上で「やさしい日本語」での回答が約39%となりました。一般的に世界で通用されると考えられている英語が17件（英語圏出身者含む）にとどまっていることから、日本で生活をする外国人を対象とした場合、母国語の次に日本語が理解できる方が多いことがわかります。市からの情報発信や、公共施設での対応等、出身国言語での対応が困難な場合には「やさしい日本語」の使用を取り入れることが求められているのかもしれません。

【参考】
在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン（令和2年8月 出入国在留管理庁、文化庁）

質問1: 何歳ですか?

ねんれいそう 年齢層	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	ぜんかいちようさ 前回調査 (H27年度)	
			かいとうすう 回答数	わりあい 割合
1 20歳～29歳	39	28.1%	19	14.7%
2 30歳～39歳	40	28.8%	33	25.6%
3 40歳～49歳	23	16.5%	33	25.6%
4 50歳～59歳	20	14.4%	32	24.8%
5 60歳～69歳	12	8.6%	6	4.7%
6 70歳より上	4	2.9%	5	3.9%
むかいとう 無回答	1	0.7%	0	0.0%
計	139	100.0%	129	100.0%



令和2年12月1日時点で入間市(以下、「市」と言う)に在住する外国人の年齢別の割合は、今調査における回答の年齢別割合とほぼ同様で、40代までで全体の約77%(20代が最も多く約31%)となり、一般に働き盛りと言われる年代に集中しています。調査結果を見ても、前回調査時よりも若い方へ10歳分割合がシフトしていることがわかります。

一方、日本人市民においては、40代までの総数は約50パーセントにとどまります。昨今、外国人市民の子どもの出産、育児や、幼稚園、保育園の通園・所の関係、小中学校への進学等についての相談が増えてきています。年齢層にあわせた支援を行っていくとともに、学校、職場など各年代の言語や生活習慣の違いから生まれる問題点等にも目を向けていかななくてはならないと考えます。

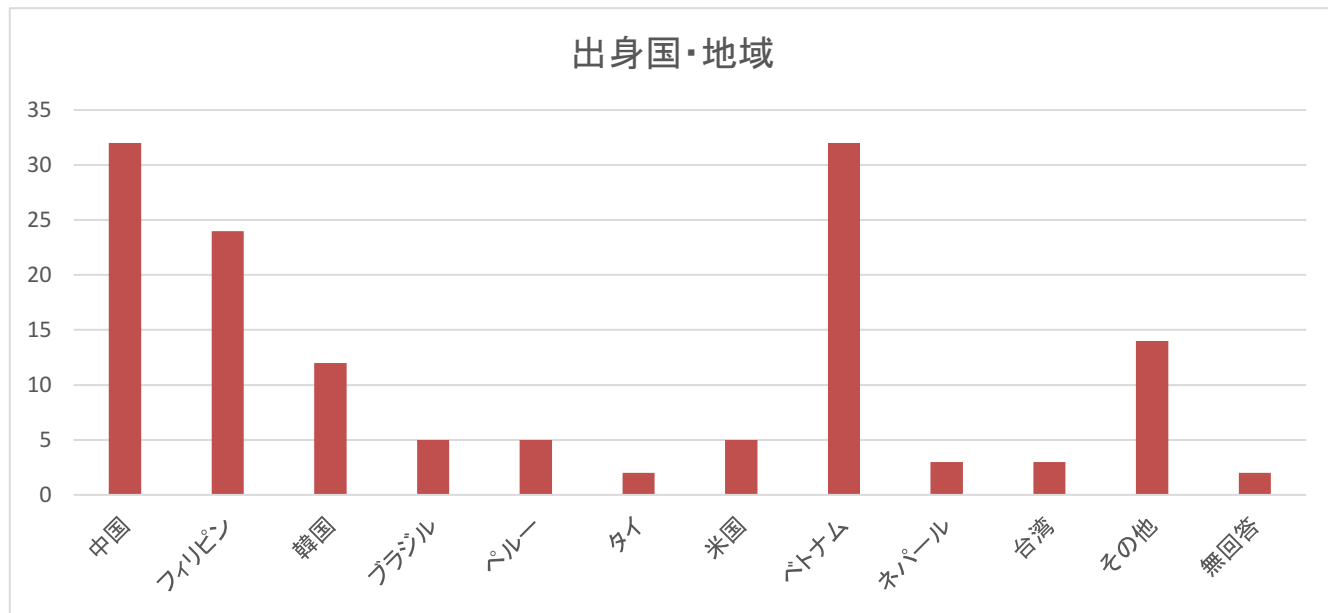
【参考】令和2年12月1日時点入間市人口 年齢別割合

令和2年12月1日時点 入間市総人口 147,249人

	外国人市民		日本人市民	
	人数	割合	人数	割合
10代以下	197	8.7%	23,520	16.2%
20代	711	31.4%	13,178	9.1%
30代	522	23.0%	14,794	10.2%
40代	323	14.3%	21,426	14.8%
50代	309	13.6%	20,050	13.8%
60代	148	6.5%	19,323	13.3%
70代以上	56	2.5%	32,692	22.5%
合計	2,266 人		144,983 人	

質問2: 国籍はどこですか？

国・地域	回答数	割合	前回調査 (H27年度)	
			回答数	割合
1 中国	32	23.0%	41	32.0%
2 フィリピン	24	17.3%	24	18.8%
3 韓国	12	8.6%	12	9.4%
4 ブラジル	5	3.6%	7	5.5%
5 ペルー	5	3.6%	5	3.9%
6 タイ	2	1.4%	5	3.9%
7 米国	5	3.6%	6	4.7%
8 ベトナム	32	23.0%	7	5.5%
9 ネパール	3	2.2%	1	0.8%
10 台湾	3	2.2%	6	4.7%
11 その他	14	10.1%	14	10.9%
無回答	2	1.4%	1	0.8%
計	139	100.0%	128	100.0%



平成28年頃より、技能実習制度が本格始動したため、前回調査時から全体的な外国人市民は大きく増加しつつ、国籍別人口の順位が大きく変化しています。特にベトナム出身者が大きく増加しました。今後の外国人支援においては、ベトナム語を中心に多くの言語に対応することが必要であるとともに「やさしい日本語」の活用等、より多くの外国人市民にわかりやすい情報を伝達する方法を検討する必要があります。

【参考】主な国籍別人口の比較

※H30年度中に集計方法が変わり、韓国、朝鮮が別集計となっています。R2年12月1日現在韓国:110人、朝鮮:13人

令和2年12月1日現在入間市在住外国人 主な国籍別人口

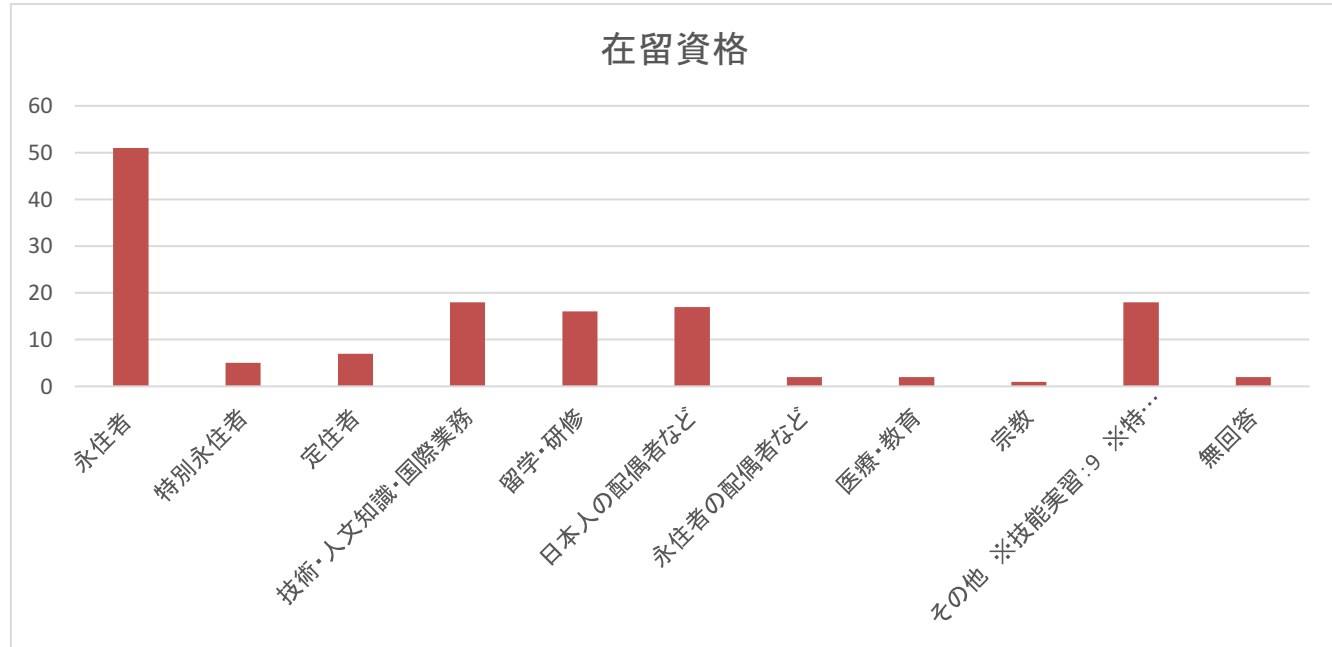
今回調査時 (R2年度)		前回調査時 (H27年度)	
外国人人口: 2,266人		外国人人口: 1,565人	
中国	405	中国	530
ベトナム	407	フィリピン	261
フィリピン	324	韓国・朝鮮	153
韓国	110	ベトナム	106
ブラジル	64	ブラジル	92
ペルー	53	ペルー	86

※総人口の1.53%

※総人口の1.05%

質問3: 在留資格(ビザ)は何ですか?

資格	今回調査		前回調査 (H27年度)	
	回答数	割合	回答数	割合
1 永住者	51	36.7%	82	63.6%
2 特別永住者	5	3.6%	5	3.9%
3 定住者	7	5.0%	2	1.6%
4 技術・人文知識・国際業務	18	12.9%	4	3.1%
5 留学・研修	16	11.5%	5	3.9%
6 日本人の配偶者など	17	12.2%	22	17.1%
7 永住者の配偶者など	2	1.4%	2	1.6%
8 医療・教育	2	1.4%	1	0.8%
9 宗教	1	0.7%	2	1.6%
10 その他 ※技能実習:9 ※特定技能:2	18	12.9%	3	2.3%
無回答	2	1.4%	0	0.0%
計	139	100.0%	129	100.0%



【質問3】在留資格について「10:その他」の多くは「技能実習」であり、日本で技術を学び自国に持ち帰ることを目的とした在留資格です。概ね3から5年で自国に帰国するものですが、加えて、令和元年度改正入管法で新設された「特定技能」の在留資格が今後本格的に活用されれば、外国人人口、国籍別の割合がなお大きく変化する可能性があります。

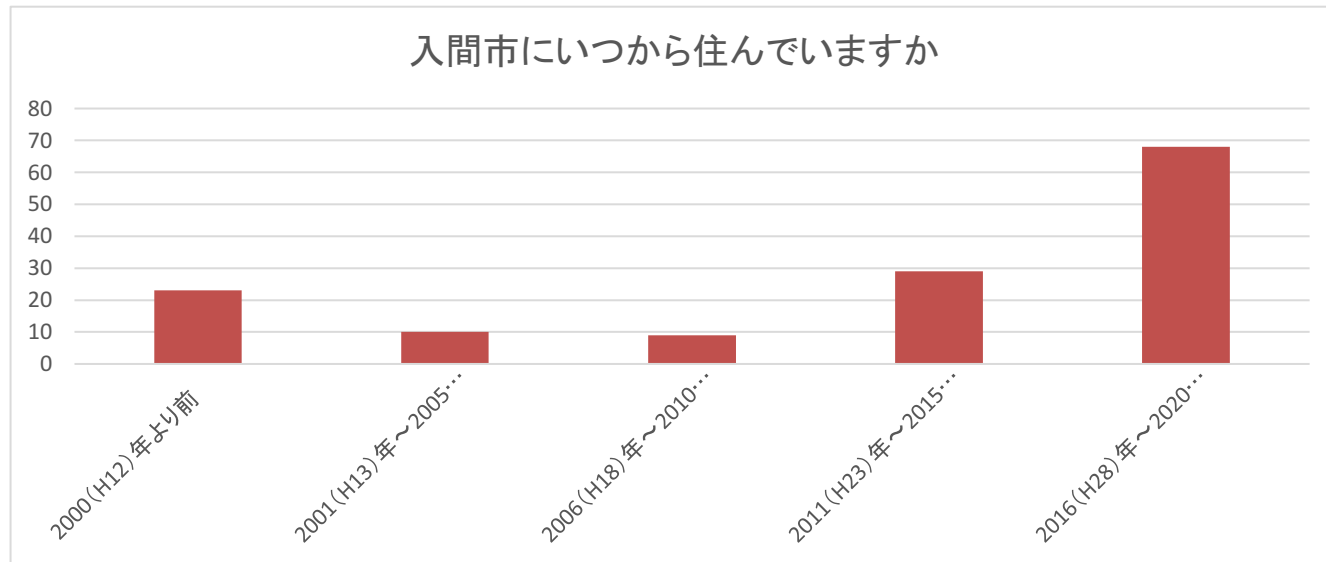
【参考】

「技能実習」: 技能、技術又は知識の開発途上地域等への移転を図り、経済発展を担う「人づくり」に寄与することを目的として設置された在留資格。技能実習1号から3号までの資格があり、その在留期間は3年から5年。

「特定技能」: 人手不足に対応するため、一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人を受け入れていくために設置された在留資格。労働力を目的とした資格であり、技術移転を目的とした技能実習とは異なる。なお一定の条件を満たした場合に技能実習から特定技能への移行が認められている。

質問4: 入間市にいつから住んでいますか?

年代	回答数	割合
1 2000 (H12) 年より前	23	16.5%
2 2001 (H13) 年～2005 (H17) 年	10	7.2%
3 2006 (H18) 年～2010 (H22) 年	9	6.5%
4 2011 (H23) 年～2015 (H27) 年	29	20.9%
5 2016 (H28) 年～2020 (R02) 年	68	48.9%
計	139	100.0%



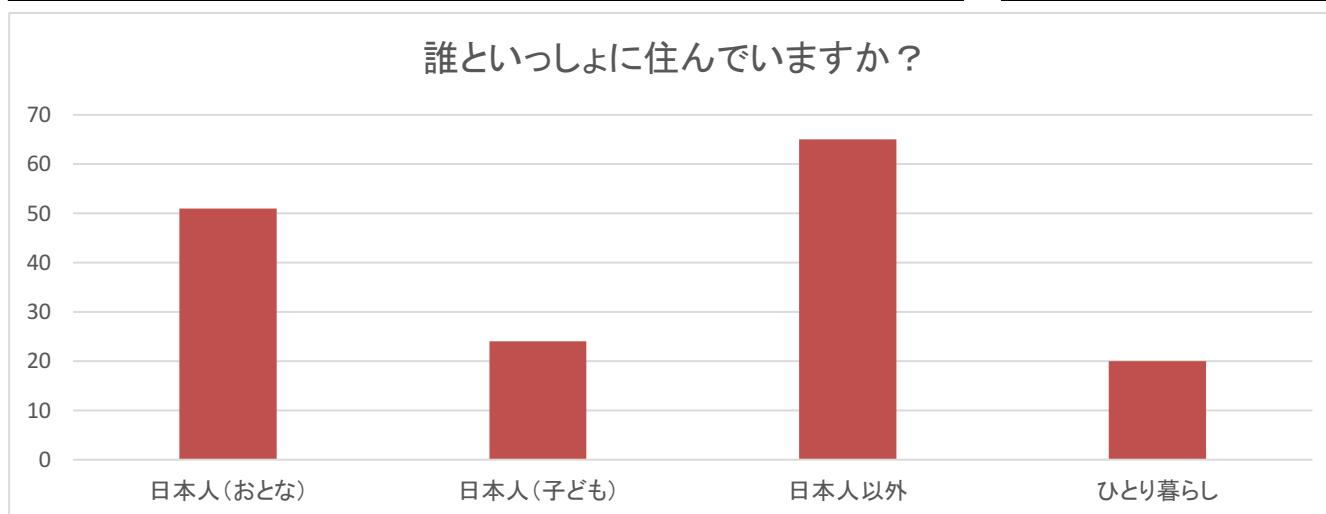
【質問4】在住年数については、ほぼ半数を「5:2016年～2020年」に転入された方が占めています。また、「4:2011年～2015年」の回答もその次に多い結果となりました。
3～5年の短い期間で帰国する「技能実習」の在留資格の方が多くに加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で帰国できず、特別措置により在留の延長を許可されている方も含まれているものと考えます。

質問5: 誰と住んでいますか (いくつでも)

一緒に住んでいる人	回答数	割合
1 日本人 (おとな)	51	31.9%
2 日本人 (子ども)	24	15.0%
3 日本人以外	65	40.6%
4 ひとり暮らし	20	12.5%
計	160	100.0%

前回調査 (H27年度)

回答数	割合
74	43.8%
40	23.7%
40	23.7%
15	8.9%
169	100.0%



【質問5】世帯構成については、「3:日本人以外と同居」、「4:ひとり暮らし」を合わせて約52%となりました。前回調査時と比較すると、日本人と同居していない世帯の割合は増加しています。
要因の一つとして、アパートや寮で生活することが多い「技能実習」や「研修」の在留資格の外国人市民の増加があげられます。

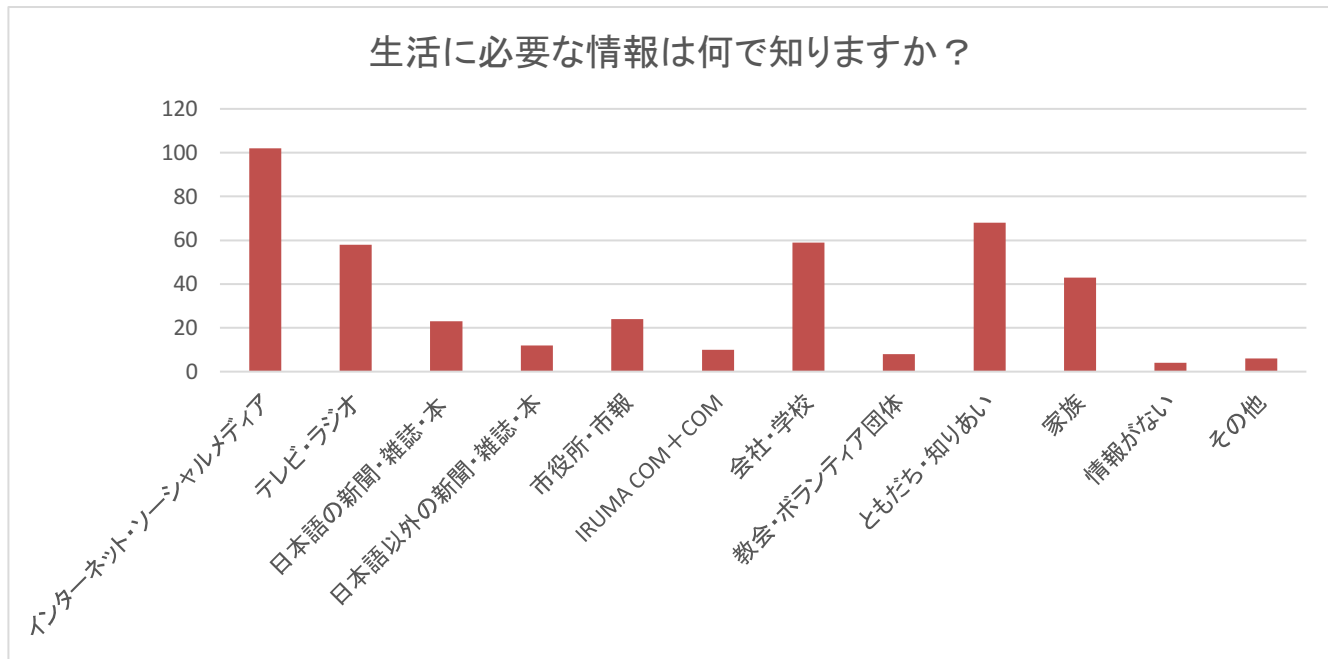
2. 情報収集

情報の取り方について教えてください。

質問6: 生活に必要な情報は何かで知りますか？ (いくつかでも)

前回調査 (H27年度)

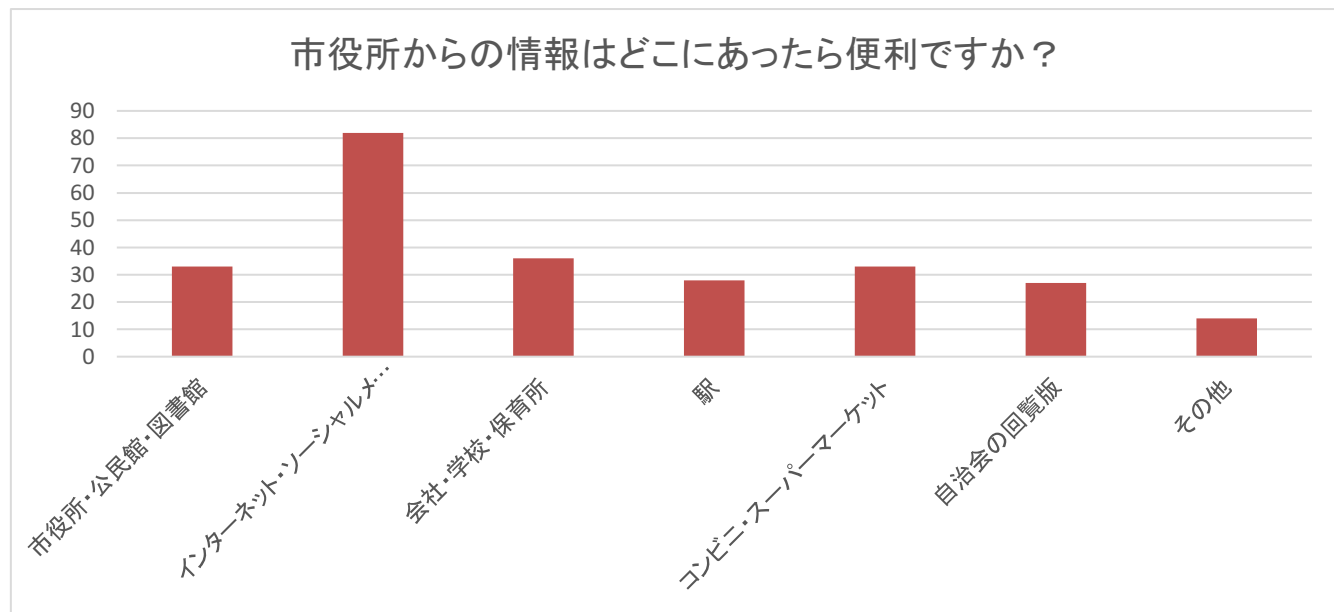
情報を集める方法	回答数	割合	前回調査 (H27年度) 回答数	前回調査 (H27年度) 割合
1 インターネット・ソーシャルメディア	102	24.5%	83	18.4%
2 テレビ・ラジオ	58	13.9%	78	17.3%
3 日本語の新聞・雑誌・本	23	5.5%	29	6.4%
4 日本語以外の新聞・雑誌・本	12	2.9%	21	4.6%
5 市役所・市報	24	5.8%	25	5.5%
6 IRUMA COM+COM	10	2.4%	13	2.9%
7 会社・学校	59	14.1%	47	10.4%
8 教会・ボランティア団体	8	1.9%	14	3.1%
9 ともだち・知りあい	68	16.3%	73	16.2%
10 家族	43	10.3%	66	14.6%
11 情報がない	4	1.0%	2	0.4%
12 その他	6	1.4%	1	0.2%
計	417	100.0%	452	100.0%



【質問6】生活情報の入手方法については、「1: インターネット・ソーシャルメディア」を使用する方が主となりますが、その中その他の回答では「7: 会社・学校」が数を伸ばしています。多くの外国人市民が技能実習や研修で転入しており、勤務先の寮や住居で共同生活を行うことが多いことが理由と考えられます。

質問7: 入間市役所からの情報がどこにあったら便利ですか？ (いくつでも)

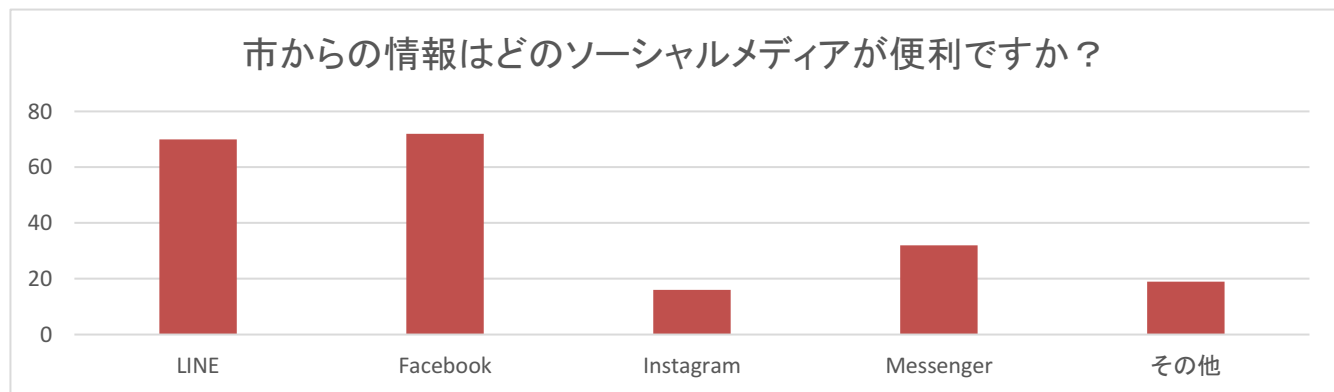
情報がある便利な場所	回答数	割合	前回調査 (H27年度)	割合
1 市役所・公民館・図書館	33	13.0%	49	17.6%
2 インターネット・ソーシャルメディア	82	32.4%	73	26.2%
3 会社・学校・保育所	36	14.2%	25	9.0%
4 駅	28	11.1%	39	14.0%
5 コンビニ・スーパーマーケット	33	13.0%	55	19.7%
6 自治会の回覧版	27	10.7%	34	12.2%
7 その他	14	5.5%	4	1.4%
計	253	100.0%	279	100.0%



質問7-1: 入間市からの情報はどのSNSが便利ですか？ (いくつでも)

便利なSNS	回答数	割合
1 LINE	70	33.5%
2 Facebook	72	34.4%
3 Instagram	16	7.7%
4 Messenger	32	15.3%
5 その他	19	9.1%
計	209	100.0%

今回新規の質問



【質問7】市からの情報を得る際の利便性については、回答「2: インターネット・SNS」から入手できると便利だと考える外国人市民が多いという結果となりました。

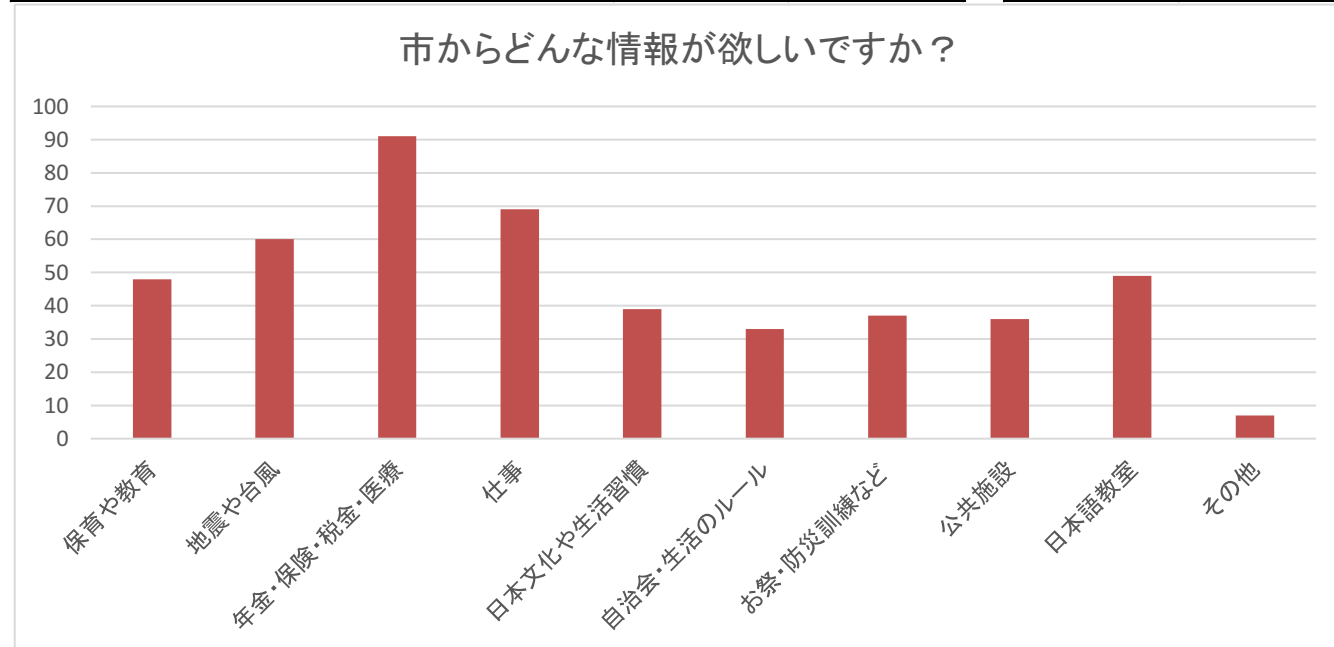
また、【質問7-1】市からの情報を得る際に便利と考えるSNSに関しては、出身国に関わらず「1: LINE」、「2: Facebook」を選択する方が多い結果となりました。

このことから、市と連携している入間市国際交流協会(以下、「市協会」と言う)のFacebookページでの情報発信、およびページ自体の周知の強化を行っていきます。また、外国人オンライン相談で使用しているLINEの市協会公式アカウントを、情報発信の手段として活用できるか、その可否についても検討する必要があります。

また、それらSNSを通じて入間市外国人相談窓口や埼玉県国際交流協会(以下、「県協会」と言う)等、出身国の言語で相談や情報入手ができる場所の周知を引き続き行っていきます。

質問8: 入間市役所からどんな情報がほしいですか? (いくつでも)

市からほしい情報			前回調査 (H27年度)	
	回答数	割合	回答数	割合
1 保育や教育	48	10.2%	51	10.8%
2 地震や台風	60	12.8%	54	11.4%
3 年金・保険・税金・医療	91	19.4%	85	17.9%
4 仕事	69	14.7%	56	11.8%
5 日本文化や生活習慣	39	8.3%	51	10.8%
6 自治会・生活のルール	33	7.0%	40	8.4%
7 お祭・防災訓練など	37	7.9%	41	8.6%
8 公共施設	36	7.7%	39	8.2%
9 日本語教室	49	10.4%	52	11.0%
10 その他	7	1.5%	4	0.8%
計	469	100.0%	474	100.0%



【質問8】市から得たい情報については、「3:年金・保険・税金・医療」を求める回答が約19%を占める結果となりました。

また、前回調査時と比較すると「4:仕事」の回答が伸びています。新型コロナウイルス感染症拡大により職を無くした、あるいは仕事が減ってしまったことが回答に大きく影響していると考えます。

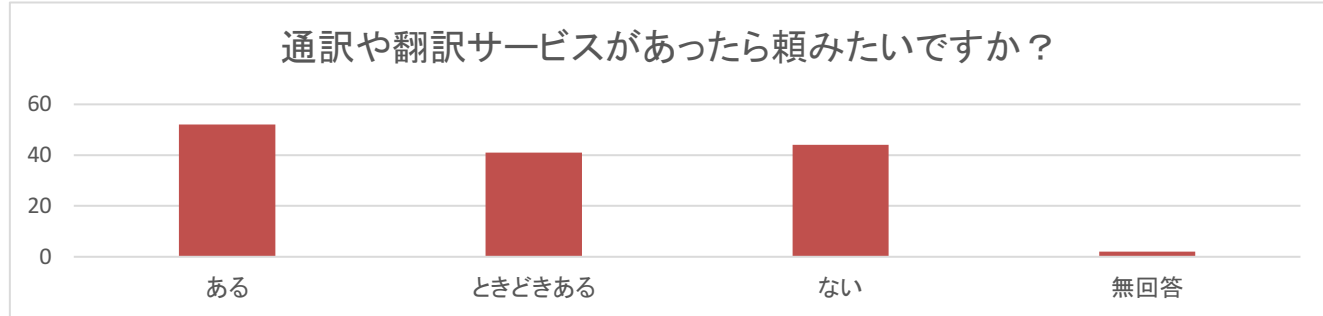
また、後述しますが、本調査の自由意見においても仕事を求める意見が多く見られています。

一方で、回答順位については前回調査時調査とほとんど変化が見られませんでした。その点では、市からの情報の届き方がここまでの前回調査時から変わっておらず、情報を求めている方に必要な情報が届いていないということがわかりました。前回調査時以降、新たに作成した生活情報冊子や運用を開始した情報発信ツールがあるものの、それらがターゲットとする層に届いていないということは反省すべき点であると考えます。

質問9: 通訳や翻訳のサービスがあったら、頼みたいことはありますか？

前回調査 (H27年度)

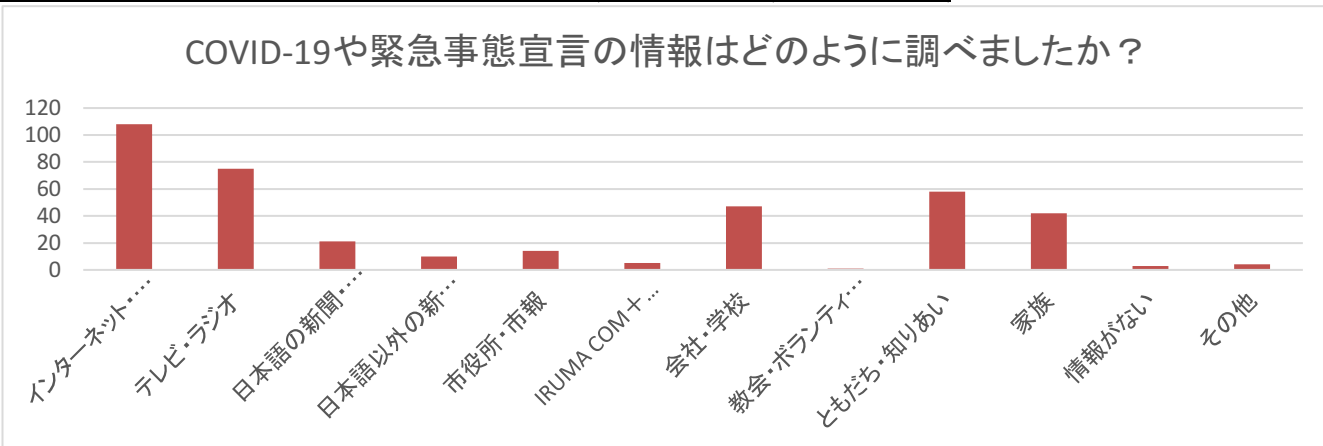
	回答数	割合	前回調査 回答数	割合
1 ある	52	37.4%	34	26.8%
2 ときどきある	41	29.5%	34	26.8%
3 ない	44	31.7%	59	46.5%
無回答	2	1.4%	2	1.6%
計	139	100.0%	127	100.0%



質問9-1: COVID-19や緊急事態宣言の情報はどのように調べましたか？ (いくつでも)

今回新規の質問

情報を集めた方法	回答数	割合
1 インターネット・ソーシャルメディア	108	27.8%
2 テレビ・ラジオ	75	19.3%
3 日本語の新聞・雑誌・本	21	5.4%
4 日本語以外の新聞・雑誌・本	10	2.6%
5 市役所・市報	14	3.6%
6 IRUMA COM+COM	5	1.3%
7 会社・学校	47	12.1%
8 教会・ボランティア団体	1	0.3%
9 ともだち・知りあい	58	14.9%
10 家族	42	10.8%
11 情報がない	3	0.8%
12 その他	4	1.0%
計	388	100.0%



【質問9】通訳・翻訳サービスの需要については、「1:ある」、「2:ときどきある」の回答で約68%を占め、多くの外国人市民が翻訳・通訳のサービスを必要としていることがわかりました。民間の事業者を圧迫する可能性があるため、市として直接通訳・翻訳サービスの事業を実施することや、特定の通訳・翻訳者を紹介することは難しいと考えますが、国や県の実施する電話でのホットラインなど、適切な情報提供を行っていきます。

【質問9-1】コロナ禍の情報収集についても、概ね【質問6】や【質問7】の回答と同様にインターネット上から情報を入手した方が多いという結果となりました。また、「2:テレビ・ラジオ」に次いで「9:ともだち・知りあい」が多いという結果から、正しい情報が普段使用する言語に左右されず届くよう、多言語での相談窓口や多言語ニュースサイトなどの情報発信を強化していくことが必要と考えます。

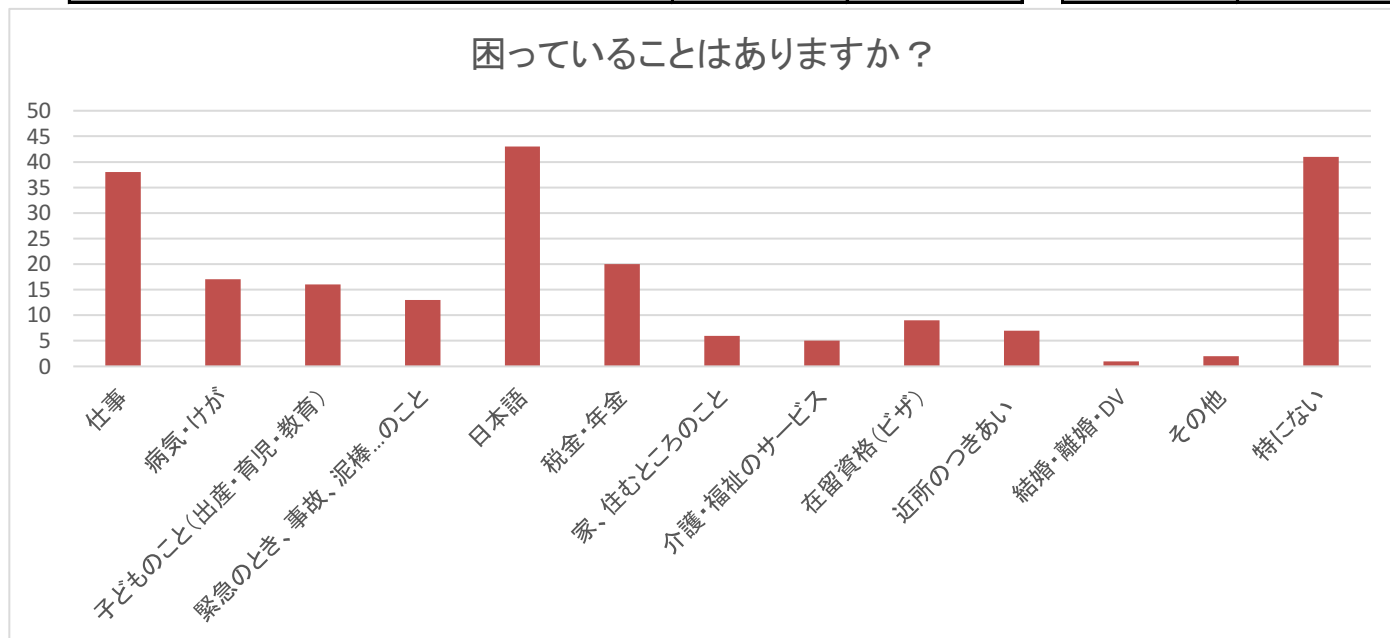
また、ごく身近に起こりうる地震や風水害といった災害情報や避難情報といった緊急時の情報発信方法についても検討していく必要があると考えます。併せて、市協会で作成した日本語教室副教材「わたしたちのまちいるま」の活用を進めるなど、市の状況に則した日ごろからの備えについて周知も行っていく必要があると考えます。

3. 生活支援

質問10: 困っていることは、ありますか？ (いくつでも)

前回調査 (H27年度)

困っていること	回答数	割合	前回調査 回答数	前回調査 割合
1 仕事	38	17.4%	55	16.6%
2 病気・けが	17	7.8%	61	18.4%
3 子どものこと (出産・育児・教育)	16	7.3%	53	16.0%
4 緊急のとき、事故、泥棒…のこと	13	6.0%	20	6.0%
5 日本語	43	19.7%	29	8.8%
6 税金・年金	20	9.2%	37	11.2%
7 家、住むところのこと	6	2.8%	11	3.3%
8 介護・福祉のサービス	5	2.3%	10	3.0%
9 在留資格 (ビザ)	9	4.1%	8	2.4%
10 近所のつきあい	7	3.2%	7	2.1%
11 結婚・離婚・DV	1	0.5%	4	1.2%
12 その他	2	0.9%	6	1.8%
13 特にない	41	18.8%	30	9.1%
計	218	100.0%	331	100.0%



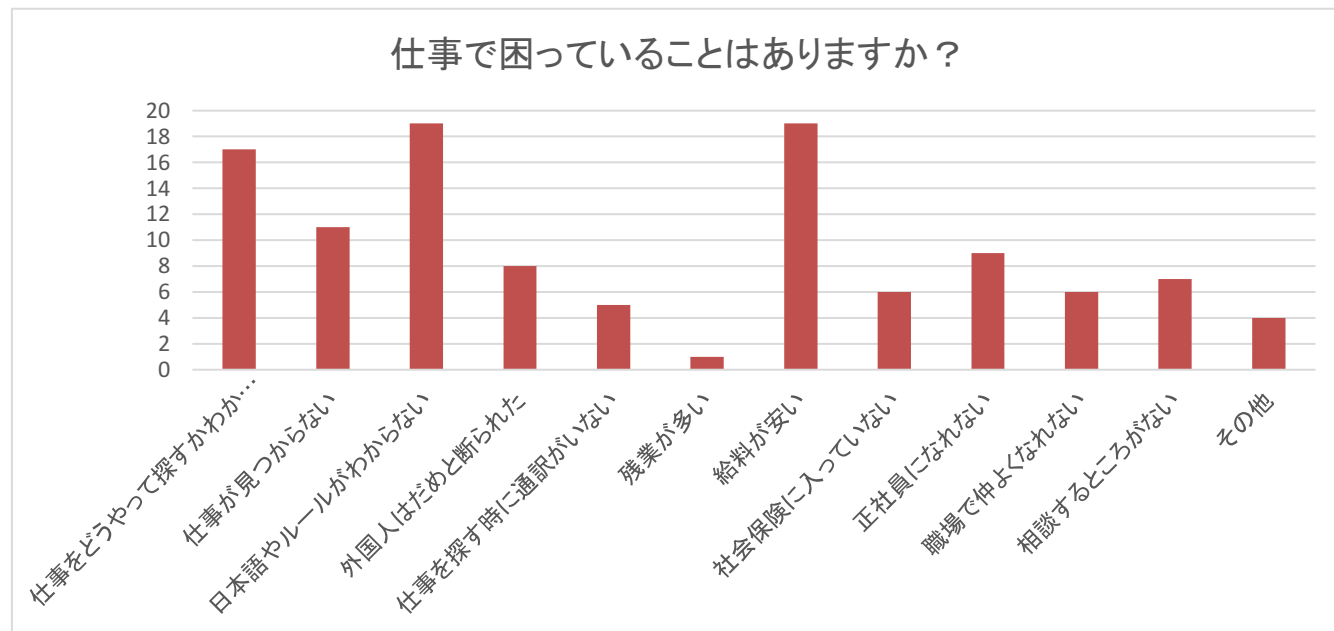
【質問10】生活で困っていることについては、「1: 仕事」、「5: 日本語」と「13: 特にない」が多い結果となりました。複数回答可である設問のため、回答者数で見るとおよそ5人に1人の外国人市民は生活上特に困っていないという結果となります。

各質問についての考察については次のページ以降に記載しますが、前回調査時においては今回と異なり「1: 仕事」、「2: 病気・けが」、「3: 子どものこと」が並ぶ結果となりました。今回一番多い回答であった「5: 日本語」については、前回調査においては回答数で6番目という結果でした。

「技能実習」や「研修」など市で生活する外国人市民の在留資格や年代の大きな変化により、外国人市民がそれぞれの生活環境の中で困っている内容にも変化が起きたものと考えます。加えて、今回調査時においては新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、仕事自体が減っている状況での調査実施となったことが少なからず回答に影響を与えているものと考えます。

質問11: 仕事で困っていることは、なんですか？ (いくつでも)

仕事で困っていること	回答数	割合	前回調査 (H27年度)	
			回答数	割合
1 仕事をどうやって探すかわからない	17	15.2%	9	8.6%
2 仕事が見つからない	11	9.8%	11	10.5%
3 日本語やルールがわからない	19	17.0%	7	6.7%
4 外国人はだめと断られた	8	7.1%	13	12.4%
5 仕事を探す時に通訳がない	5	4.5%	4	3.8%
6 残業が多い	1	0.9%	3	2.9%
7 給料が安い	19	17.0%	18	17.1%
8 社会保険に入っていない	6	5.4%	2	1.9%
9 正社員になれない	9	8.0%	13	12.4%
10 職場で仲よくなれない	6	5.4%	4	3.8%
11 相談するところがない	7	6.3%	14	13.3%
12 その他	4	3.6%	7	6.7%
計	112	100.0%	105	100.0%



【質問11】仕事で困っていることについては、前回調査と比較すると「1: 仕事の探し方」、「3: 日本語とルール」の項目が大きく回答数を伸ばしました。一方で、「4: 外国人を理由とした断り」の回答数が減る結果となっています。「1: 仕事の探し方」、「2: 日本語とルール」についてはコロナ禍において、求人数が大きく減ってしまっていることも原因の一つと考えられます。

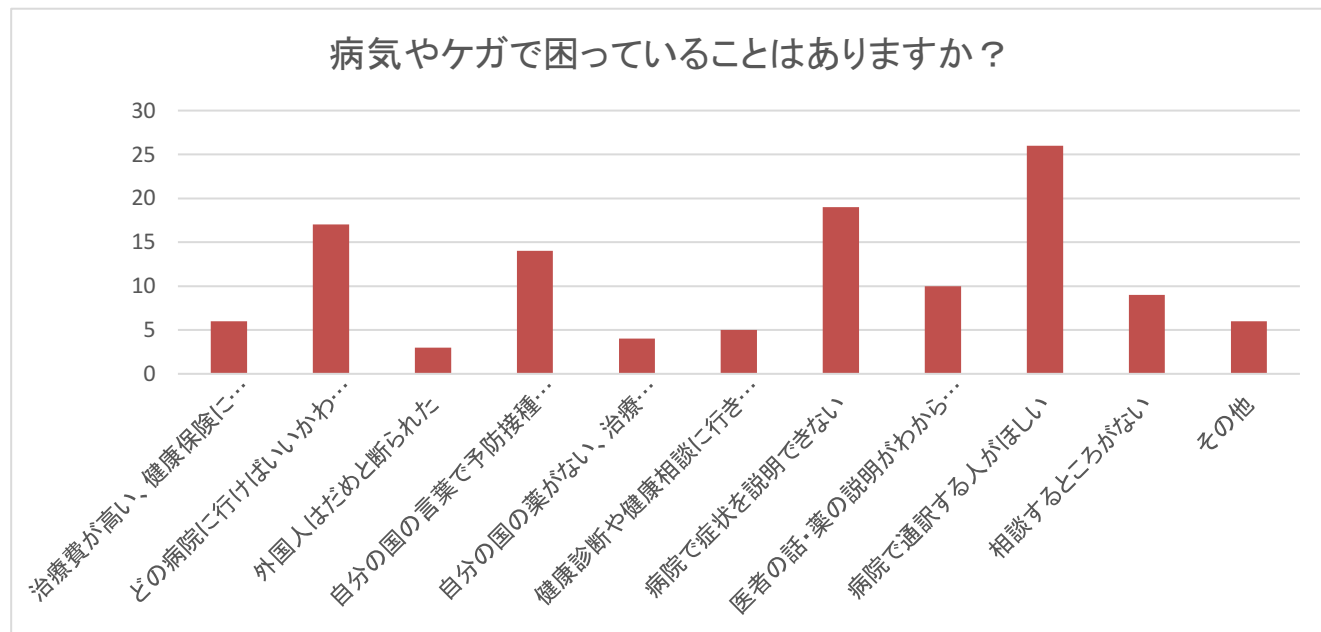
また、前回調査以降には技能実習生の受入れなど、今まで以上に外国人労働者の受け入れが活発化しています。一定の学習を行ってから来日しますが、依然言葉に伴う壁があることも考えられます。

反面、「4: 外国人を理由とした断り」が回答数を減らした背景には、外国人労働者受け入れに対する素地ができつつあるといった状況があるのかもしれませんが。

また、所沢のような外国人対応が可能なハローワークと異なり、市庁舎内のふるさとハローワークでは、日本語で募集、契約条件等を理解した状況でないと職の紹介ができないこととなっています。自身の住む市内にハローワークがあるという利便性を有効に活用してもらうためにも、生活に即した日本語学習機会の充実や、市や市協会の情報発信を通じて日本語に触れる機会を増やししながら、状況に応じた外国語での支援が必要とされています。あわせて、外国人市民を雇用する事業者等への情報発信や、日本語学習推進への理解を求めることなども必要と考えます。

質問12: 病気やけがで困っていることは、ありますか？ (いくつでも)

病気やけがで困っていること	回答数	割合	前回調査 (H27年度)	
			回答数	割合
1 治療費が高い、健康保険に入っていない	6	5.0%	5	4.0%
2 どの病院に行けばいいかわからない	17	14.3%	20	15.9%
3 外国人はだめと断られた	3	2.5%	1	0.8%
4 自分の国の言葉で予防接種や健康診断の説明がない	14	11.8%	11	8.7%
5 自分の国の薬がない、治療方法がちがう	4	3.4%	8	6.3%
6 健康診断や健康相談に行きにくい	5	4.2%	10	7.9%
7 病院で症状を説明できない	19	16.0%	14	11.1%
8 医者の話・薬の説明がわからない	10	8.4%	16	12.7%
9 病院で通訳する人がほしい	26	21.8%	20	15.9%
10 相談するところがない	9	7.6%	11	8.7%
11 その他	6	5.0%	10	7.9%
計	119	100.0%	126	100.0%



【質問12】病気やけがで困っていることに対する回答は、前回調査時の回答とほとんど変わらず、日本語能力に起因する「4: 予防接種・検診の説明について」、「7: 症状の説明について」、「8: 医者等の説明について」、「9: 通訳について」だけで半数を超える回答となりました。

現在、医療通訳については、通常の通訳・翻訳との違いは高度な専門性を必要とするため、県協会が有償で実施する通訳等を紹介しています。国においても、訪日、在日外国人の増加に伴い、観光庁と連携して作成した外国語対応可能な病院リストの周知や、厚生労働省においては外国人患者受け入れ拠点病院の設置や医療通訳の配備、外国人患者受け入れ医療コーディネーターの育成等に力を入れている状況にあります。そういった病院のリストや情報の周知により、診療、治療に困る外国人市民を外国語対応可能な病院につなぐとともに、外国人雇用のある事業所との連携や情報提供など国や県の間立った中間的な支援に力を入れる必要があると考えます。

【参考】

「外国人患者を受け入れる医療機関の情報を取りまとめたリスト」(日本政府観光局):

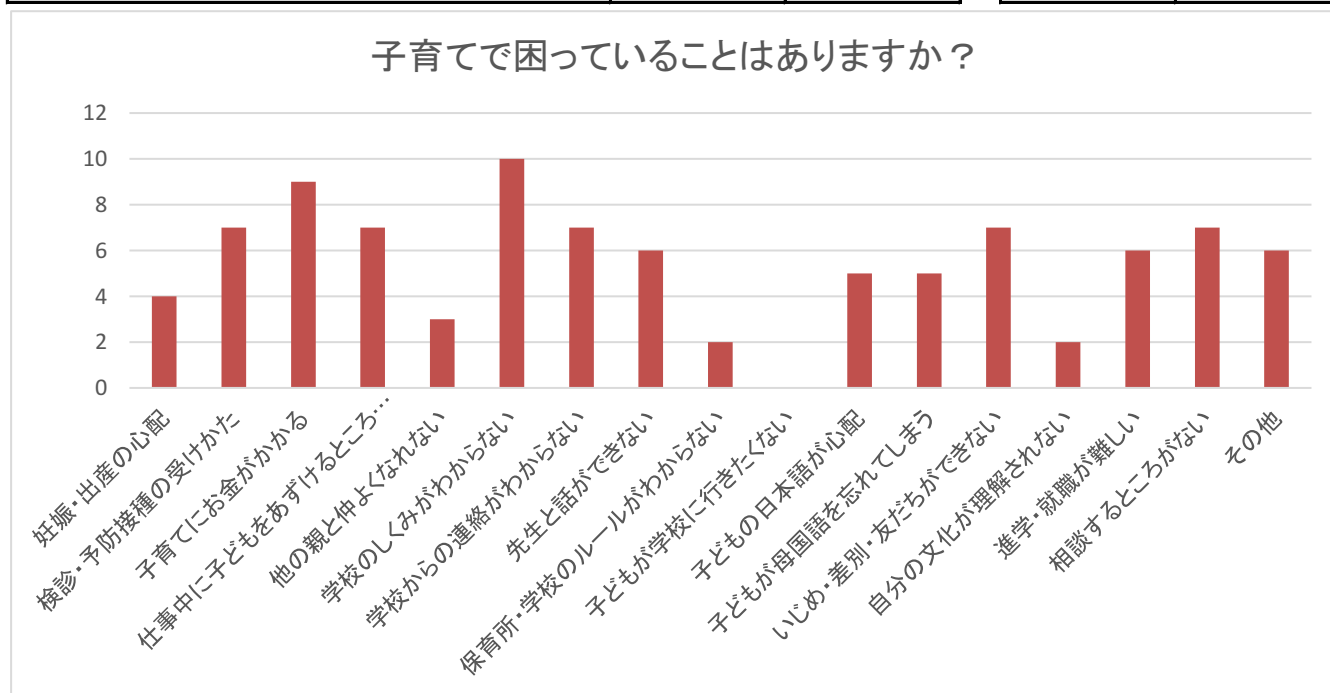
https://www.jnto.go.jp/emergency/jpn/mi_guide.html

「外国人患者受け入れ医療コーディネーター」: 院内外において外国人患者受け入れ体制整備の中心的役割を担うとともに、外国人患者の来院時に安全かつ円滑に医療を提供するための院内外調整を行う医療者。

質問13: 子育てで困っていることはありますか？ (いくつでも)

前回調査 (H27年度)

子育てで困っていることはありますか	回答数	割合	前回調査 回答数	割合
1 妊娠・出産の心配	4	4.3%	7	5.8%
2 検診・予防接種の受けかた	7	7.5%	6	5.0%
3 子育てにお金がかかる	9	9.7%	18	15.0%
4 仕事中に子どもをあずけるところがない	7	7.5%	4	3.3%
5 他の親と仲よくなれない	3	3.2%	7	5.8%
6 学校のしくみがわからない	10	10.8%	9	7.5%
7 学校からの連絡がわからない	7	7.5%	8	6.7%
8 先生と話ができない	6	6.5%	6	5.0%
9 保育所・学校のルールがわからない	2	2.2%	3	2.5%
10 子どもが学校に行きたくない	0	0.0%	2	1.7%
11 子どもの日本語が心配	5	5.4%	7	5.8%
12 子どもが母国語を忘れてしまう	5	5.4%	8	6.7%
13 いじめ・差別・友だちができない	7	7.5%	12	10.0%
14 自分の文化が理解されない	2	2.2%	4	3.3%
15 進学・就職が難しい	6	6.5%	1	0.8%
16 相談するところがない	7	7.5%	10	8.3%
17 その他	6	6.5%	8	6.7%
計	93	100.0%	120	100.0%



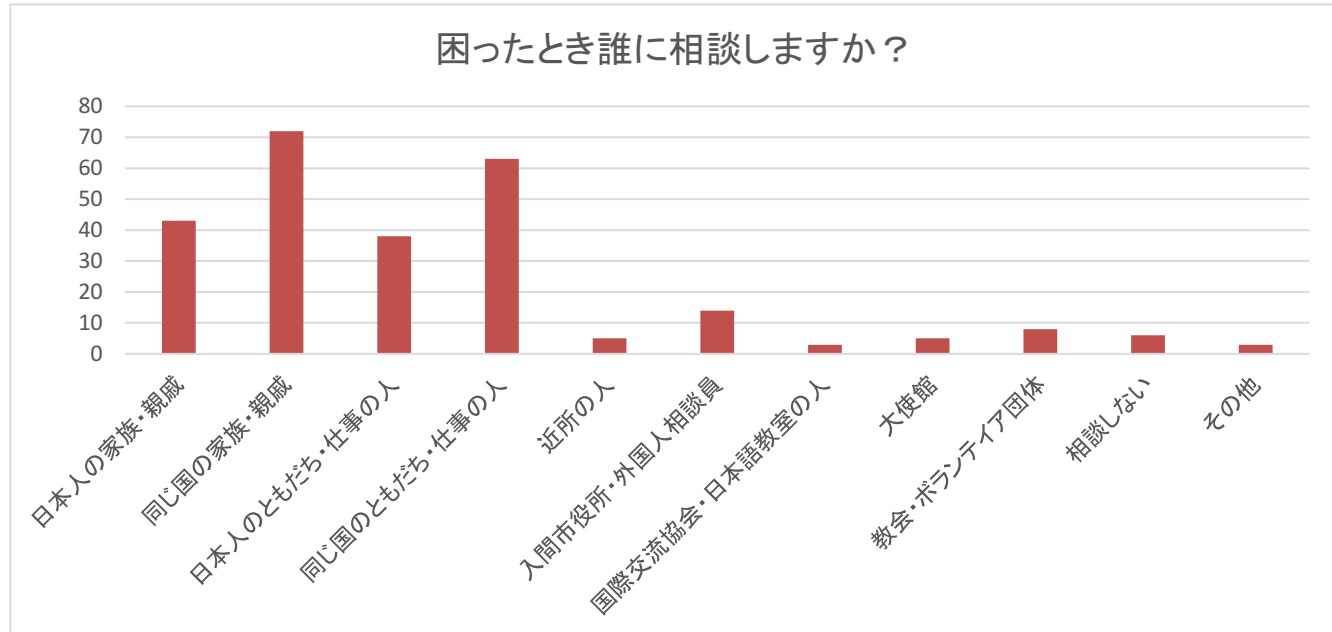
【質問13】子育てで困っていることについての回答で多数を占めたのは「6:学校のしくみがわからない」であり、同様の内容である「9:保育所・学校のルールがわからない」を併せると、約13%の方が日本や市における保育や学校のルールが理解しきれていないとの結果となりました。前回の調査結果を見ると、一番多く選択されていたのは「3:子育てにかかるお金」でしたが、概ねどの回答もその割合については変化が見られませんでした。

「7:学校からの連絡」、「8:先生と話ができない」、「11:子どもの日本語」については、大きな課題です。現在、市教育委員会では、外国にルーツのある児童・生徒に対する学校での日本語指導として、週2時間設けているものの、本来の指導以上に日常生活の悩み相談で時間が経過する状況にあると聞きました。また、日本語が話せない親御さんに対する日本語学習の必要性もあります。

日本語ができないことで学習についていけないことが本設問の選択肢につながり得る中で、今後一層日本語学習の強化と、保育所・学校等に関する案内や周知を行う必要があると考えます。

質問14: 困ったとき、誰に相談をしますか？ (いくつでも)

だれ 相談 誰に相談しますか	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	ぜんかいちようさ 前回調査 (H27年度)	
			かいとうすう 回答数	わりあい 割合
1 にほんじんのかぞく・しんせき 日本人の家族・親戚	43	16.5%	69	27.7%
2 おなじくにのかぞく・しんせき 同じ国の家族・親戚	72	27.7%	39	15.7%
3 にほんじんのともだち・しごとの人 日本人のともだち・仕事の人	38	14.6%	51	20.5%
4 おなじくにのともだち・しごとの人 同じ国のともだち・仕事の人	63	24.2%	46	18.5%
5 きんじよの人 近所の人	5	1.9%	9	3.6%
6 いるましやくしよ・がいこくじんそうだんいん 入間市役所・外国人相談員	14	5.4%	12	4.8%
7 こくさいこうりゆうきようかい にほんごきょうしつの人 国際交流協会・日本語教室の人	3	1.2%	6	2.4%
8 たいしかん 大使館	5	1.9%	4	1.6%
9 きようかい・ほらんていあだんたい 教会・ボランティア団体	8	3.1%	9	3.6%
10 そうだんしない 相談しない	6	2.3%	2	0.8%
11 その他	3	1.2%	2	0.8%
計	260	100.0%	249	100.0%



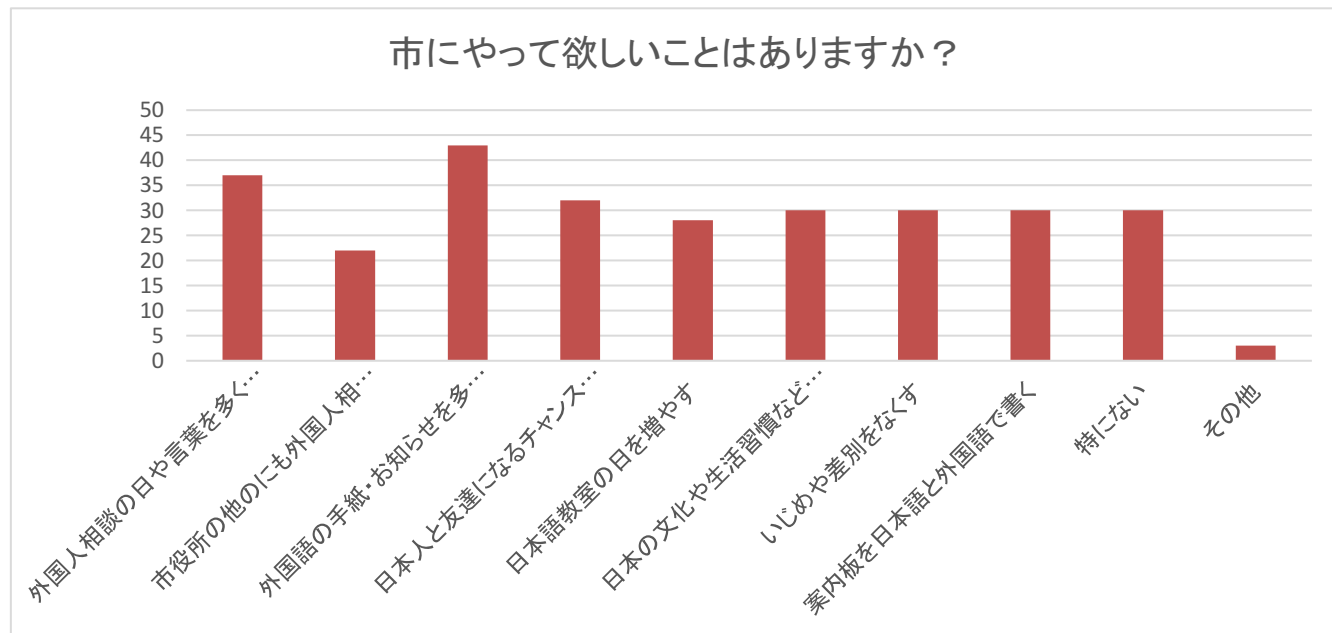
【質問14】困った時の相談先については、前回調査において「3:日本人の友人・知り合い」を選択する方が多く見受けられましたが、今回は「2:同じ国の家族・親戚」、「4:同じ国の友人・同僚」を選択する方が増え、同国の方に相談する方が多くいることがわかりました。

市内には技能実習等で来日する外国人市民が多く、短い期間で帰国することや、仕事場や生活圏に前回調査時よりも多くの同国出身の外国人市民が生活していることが理由の一つと考えられます。

外国人相談窓口といった相談の場があることを周知するとともに、相談の場に行く前に情報収集ができるよう、インターネットやSNS等を用いた情報発信を強化していく必要があると考えます。また、その効果的な方法や使用する言語等についても、引き続き研究を行っていきます。

質問15: 入間市にしてほしいことはありますか？ (いくつでも)

市にしてほしいこと	回答数	割合	前回調査 (H27年度)	
			回答数	割合
1 外国人相談の日や言葉を多くする	37	13.0%	33	15.1%
2 市役所の他にも外国人相談の場所をつくる	22	7.7%	—	—
3 外国語の手紙・お知らせを多くする	43	15.1%	33	15.1%
4 日本人と友達になるチャンスをふやす	32	11.2%	26	11.9%
5 日本語教室の日を増やす	28	9.8%	19	8.7%
6 日本の文化や生活習慣などを教える	30	10.5%	25	11.4%
7 いじめや差別をなくす	30	10.5%	29	13.2%
8 案内板を日本語と外国語で書く	30	10.5%	22	10.0%
9 特にない	30	10.5%	28	12.8%
10 その他	3	1.1%	4	1.8%
計	285	100.0%	219	100.0%



【質問15】市からの支援については、「1:外国人相談を増やす」、「3:外国語文書を増やす」を選択する方が多いものの、回答数の割合は概ね分散しています。前回調査においても同様の結果となっており、できる限り自国言語で情報収集や相談を行いたいことが伺えます。

外国人相談窓口については、令和2年度から英語の相談対応の拡充、LINEでのオンライン相談など相談事業の充実を図りましたが、令和2年度途中には相談件数が過去最高値を更新し、そのニーズは年々増え続けています。言語や日程など、利用しやすい外国人相談窓口の実施について今後も検討する必要があります。

回答「3:外国語文書を増やす」については、文書の多言語化対応は限りがありますが、ベトナム語を中心として可能な限りの対応を行っていくことが必要と考えます。また、文書に「やさしい日本語」を使用する等、出身国の言語に関わらずより多くの方に伝わるような表記の方法も検討していく必要があると考えます。

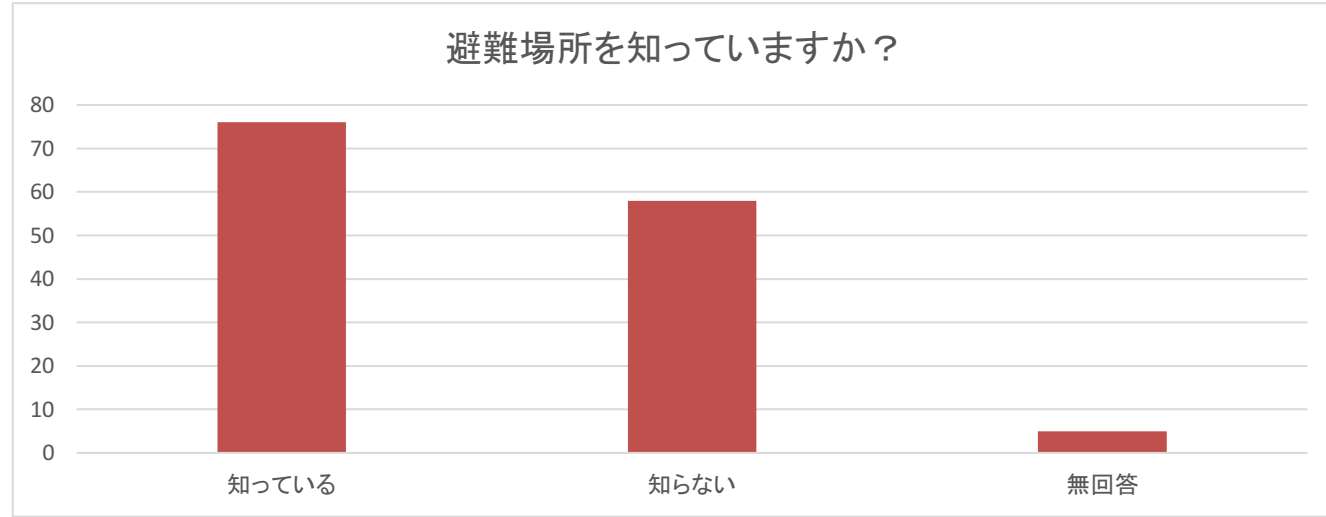
【参考】

「日本語教育の推進に関する法律」令和元年6月

「日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針」令和2年6月閣議決定

質問16: 自分の家の近くの避難する場所を知っていますか？

避難場所について	回答数	割合	前回調査 (H27年度) 回答数	前回調査 (H27年度) 割合
1 知っている	76	54.7%	76	58.9%
2 知らない	58	41.7%	48	37.2%
無回答	5	3.6%	5	3.9%
計	139	100.0%	129	100.0%

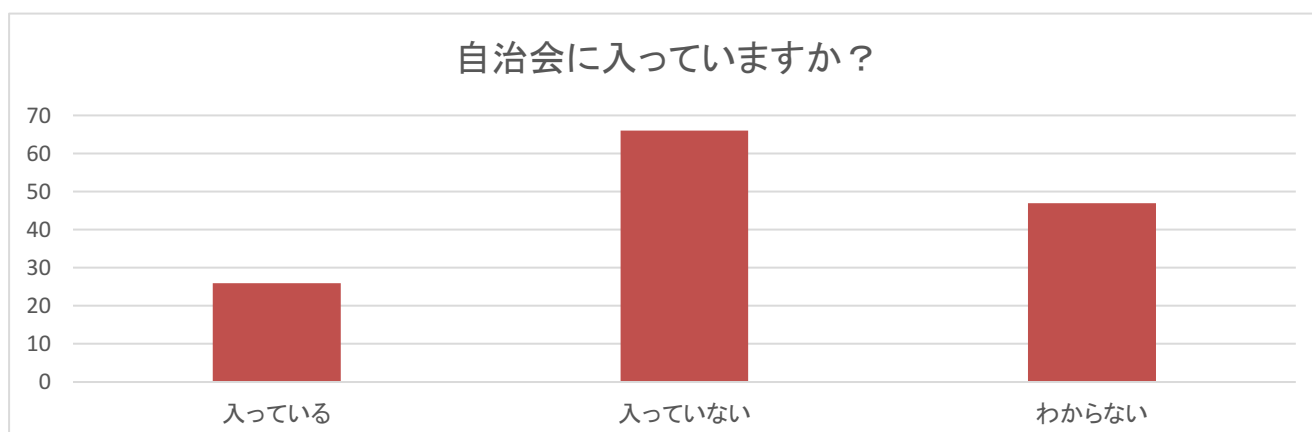


4 多文化共生の地域づくりと交流

地域活動などおしえてください。

質問17: 自治会(同じ地域に住んでいる人の集まり)に入っていますか？

自治会の加入について	回答数	割合	前回調査 (H27年度) 回答数	前回調査 (H27年度) 割合
1 入っている	26	18.7%	44	34.1%
2 入っていない	66	47.5%	58	45.0%
3 わからない	47	33.8%	25	19.4%
無回答	0	0.0%	2	1.6%
計	139	100.0%	129	100.0%



【質問16】避難所の認識については、「1: 知っている」が約54%と「2: 知らない」を上回った形となりました。しかしながら、前回調査時とほとんど変わらない割合であるとともに、命に関わる部分の情報であるため、今後一層の周知を図る必要があると考えます。令和2年度中には日本語の不自由な避難者が避難された時のために、避難所に「多言語指差しボード」の配備を行ったところですが、避難所に受け入れ態勢があるということも含めた周知が必要と考えます。

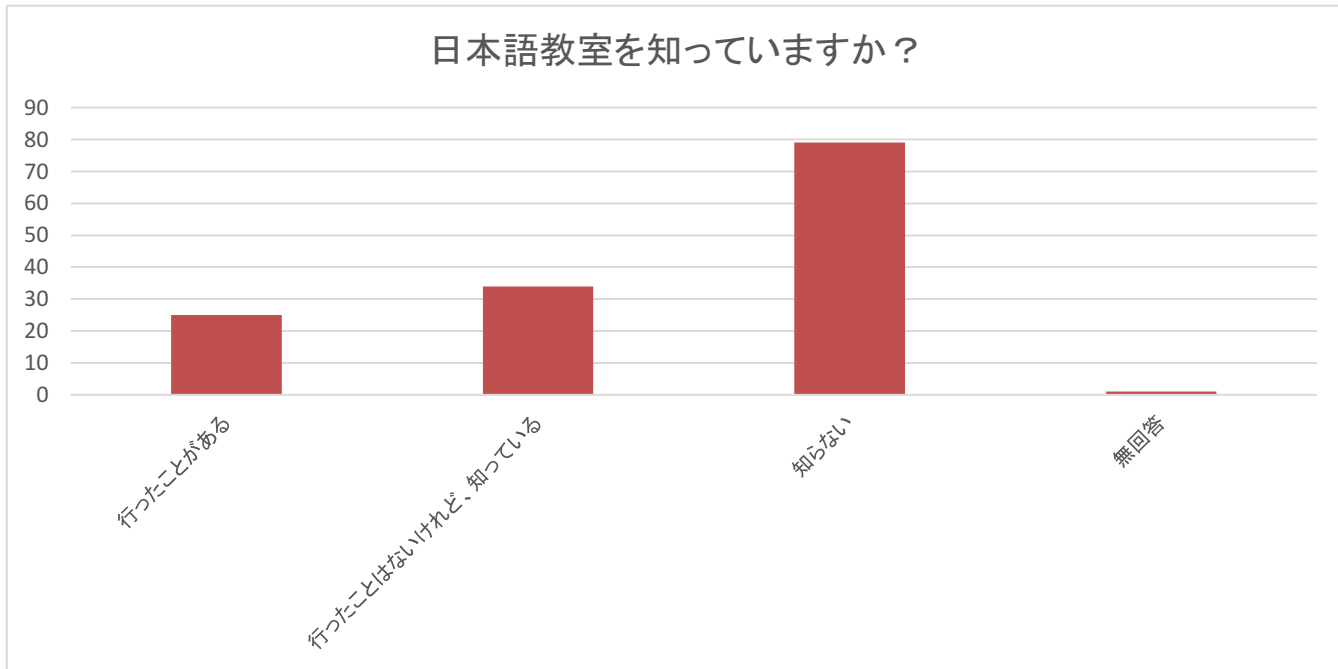
【質問17】自治会加入についての質問では、「1: 入っている」、「2: 入っていない」を併せると約67%となり、自治会を認識している外国人市民は一定数います。

反面、諸外国には自治会が生活文化にないため、知ってはいるものの加入していない方が多数となりました。地域住民との交流が通常時・災害時の生活に役立つものであることをアピールし、令和元年度に作成した自治会案内チラシ(英語・中国語)を活用しながら、周知及び加入を促していきます。

質問18: 入間市・入間市国際交流協会の仕事をしていますか？

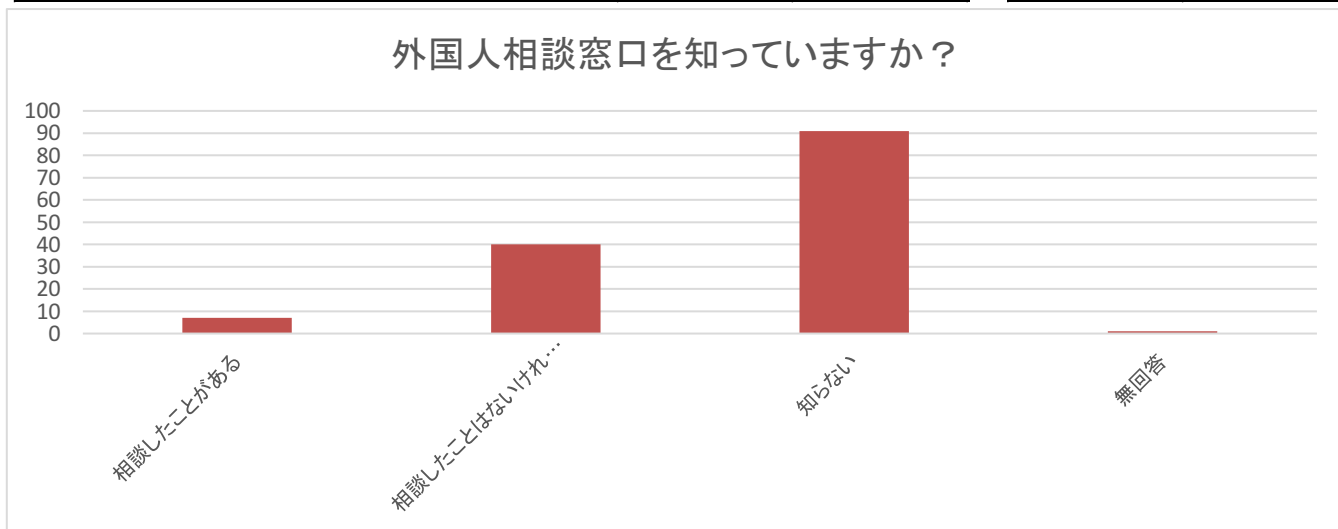
A. 日本語教室を知っていますか？

日本語教室について	回答数	割合	前回調査 (H27年度)	
			回答数	割合
1 行ったことがある	25	18.1%	38	29.7%
2 行ったことはないけれど、知っている	34	24.6%	35	27.3%
3 知らない	79	57.2%	55	43.0%
無回答	1	0.7%	1	0.8%
計	138	100.0%	128	100.0%



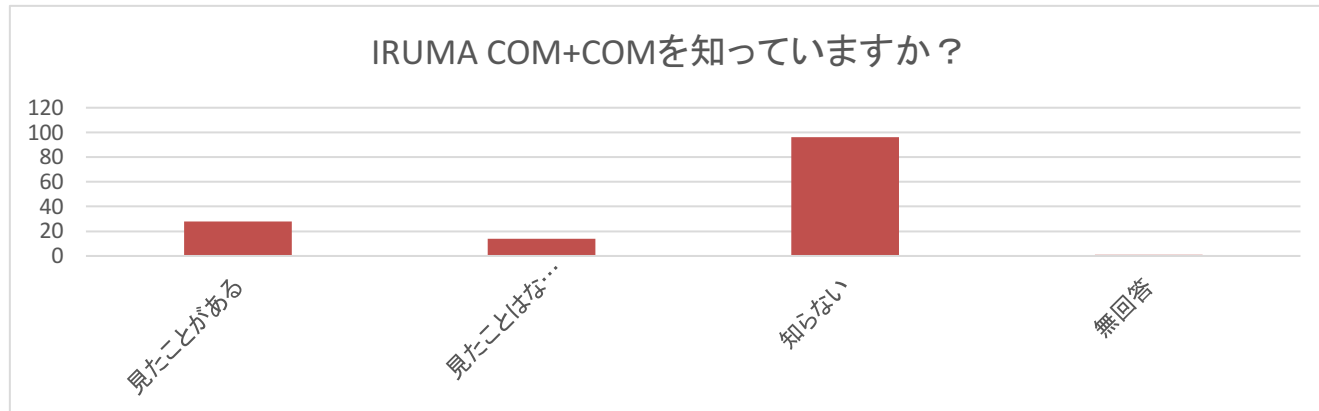
B. 外国人相談窓口を知っていますか？

外国人相談について	回答数	割合	前回調査 (H27年度)	
			回答数	割合
1 相談したことがある	7	5.0%	16	12.5%
2 相談したことはないけれど、知っている	40	28.8%	46	35.9%
3 知らない	91	65.5%	66	51.6%
無回答	1	0.7%	1	0.8%
計	139	100.0%	128	100.0%



C. 入間市政情報紙『IRUMA COM+COM』を知っていますか？

IRUMA COM+COMについて	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	ぜんかいちようき 前回調査 (H27年度)	
			かいとうすう 回答数	わりあい 割合
1 みたことがある	28	20.1%	30	23.4%
2 みたことはないが知っている	14	10.1%	16	12.5%
3 知らない	96	69.1%	82	64.1%
むかいとう 無回答	1	0.7%	1	0.8%
計	139	100.0%	128	100.0%



D. FM CHAPPYの外国語放送『エフビーアイ』を知っていますか？

エフビーアイについて	かいとうすう 回答数	わりあい 割合	ぜんかいちようき 前回調査 (H27年度)	
			かいとうすう 回答数	わりあい 割合
1 きいたことがある	8	5.8%	15	11.7%
2 きいたことはないけれど、知っている	15	10.8%	14	10.9%
3 知らない	116	83.5%	99	77.3%
むかいとう 無回答	0	0.0%	1	0.8%
計	139	100.0%	128	100.0%



【質問18-A～D】市、市協会が実施する外国人支援事業の認識については、前回調査時に比べて各質問で、「1:利用したことがある」、「2:利用したことはないが知っている」が減り「3:知らない」が増えています。とても残念な結果ですが、今後その周知方法について大いに検討を重ねていかなくてはならないと考えます。

前回調査時に比べ、市内には“来市4年以内、なおかつ3～5年の期間で帰国する年齢層の若い外国人市民”が多いこともこの結果に大きく影響していると考えています。新しく住民となった外国人市民向けにガイダンスを実施するなど、周知の新たな形も含めた検討が必要です。

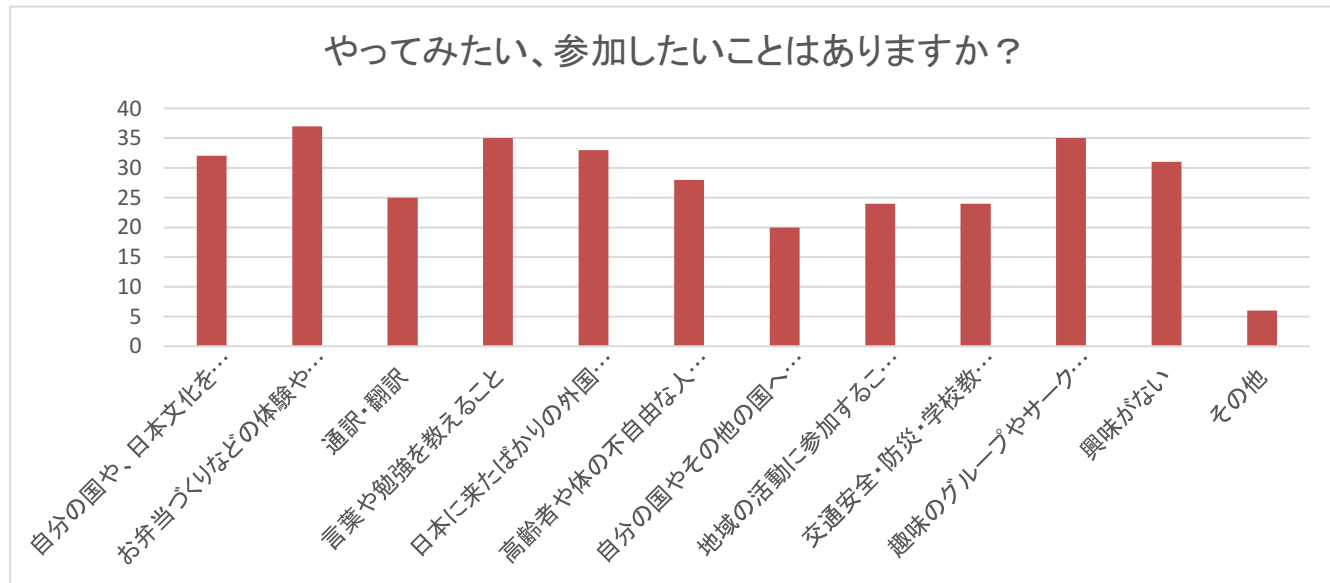
一方で、実際の外国人相談窓口事業の実施件数についてはここ数年で急増しています。令和元年度より開始した、東京出入国在留管理局職員同席による相談や、コロナ禍における相談の増加によるものと考えます、新たな相談事業の実施が功を奏した形となりました。

また【質問14】困った時の相談先についての回答から、同国出身者同士で相談、情報共有を行っていることが多いとの結果が出ていることから、口コミで間接的な情報発信を行うことができると考えます。その周知に当たっては国ごとのピンポイントでの情報発信やガイダンスも必要とされてくるかもしれません。

質問19: 『やってみたい』『参加したい』ことはありますか？

前回調査 (H27年度)

仕事で困っていること	回答数	割合	前回調査 回答数	割合
1 自分の国や、日本文化を紹介するイベント	32	9.7%	28	9.5%
2 お弁当づくりなどの体験やクラフト	37	11.2%	27	9.2%
3 通訳・翻訳	25	7.6%	37	12.5%
4 言葉や勉強を教えること	35	10.6%	23	7.8%
5 日本に来たばかりの外国人を助けること	33	10.0%	29	9.8%
6 高齢者や体の不自由な人を助けること	28	8.5%	24	8.1%
7 自分の国やその他の国へのサポート	20	6.1%	23	7.8%
8 地域の活動に参加すること、手伝うこと	24	7.3%	28	9.5%
9 交通安全・防災・学校教育・子育てなどの勉強会に行くこと	24	7.3%	20	6.8%
10 趣味のグループやサークル活動	35	10.6%	35	11.9%
11 興味がない	31	9.4%	11	3.7%
12 その他	6	1.8%	10	3.4%
計	330	100.0%	295	100.0%



【質問19】どの項目も約5～10パーセントの範囲で選択されていることから、多くの外国人市民は地域での活動や地区住民との交流に興味を持っていることが伺えます。

特に「3:通訳・翻訳」、「4:言葉を教えること」、「5:外国人の手助け」、「6:高齢や障がいのある方の手助け」といった自身の経験や才能を還元する活動に興味を持つ方も多いことから、外国人市民の手を借りることも一考と考えます。

今後、今回の選択肢にあるような内容の事業実施を通して、同国出身者のつながりや出身国に関わらない外国人市民同士のつながりを発掘するとともに、それらのつながりへ積極的にアプローチしていくことが必要と考えています。

また、それらのつながりを日本人市民との間へと拡げていくことが、今後の地域活性化や地域の担い手につながるのかもしれませんが、外国人支援が外国人市民だけでなく市民全体の利益として還元されるような形の施策が求められていると考えます。

自由意見

入間市は今まで住んだどこよりもよい

入間市が好きです。（何人かの）近所の人は友好的です。若干年をはなれていますが、それは問題ありません。私の唯一の問題は言葉の壁です。簡単な日本語は話せまずし理解もできますが、いまだにそんなに得意ではありません。夫と娘は流ちょうな英語を話すため、私自身も英語を話すことに慣れてしまっており、そのせいで日本語を覚えるのを難しくしてしまっていると思います。学校の集まりに参加することも難しくすることがあります。親御さんや先生方が私の言うことを理解できないのではないかと思うからです。加えて、仕事探しも難しいです。仕事をも娘の世話もできる（学校の時間帯と仕事の時間帯）仕事かそれを認めてくれる職場を探しています。市役所に行って協会に参加したいと思います！

もっと日本人と知り合いたい、イベントに参加したい。

金子駅の周辺に外国人のためにサッカー場を作ってほしい。

色々な情報をありがとうございます。私たち外国人、特に日本に来て間もない人を助けてくれます。最近の状況の中では、私たちは本当にお互い助け合わなくてはなりません。

特に入間での生活について言うことはありません。私の子どもは学校でいじめをうけましたが、もうすでに終わったことです。今現在は家族固い絆で暮らしていて、問題ありません。私の問題は子どもの教育にかけると十分なお金がないことです。なので私の生活はいつも仕事とお金を稼ぐことばかりです。なんとかしていきませんが、「頑張るしかないです」。

日本で生まれ、日本で育っているため困っていることは特にありません。

仕事を見つけるのを手伝ってください。わたしは今パブのおみせで働いています。コロナのせいでお客さんが無く、これ以上仕事がありません。私は入間市に来たばかりです。どうか私が定職を見つけるのを助けてください。

街のあちこちに英語表記をして欲しい。例えばバス停など公共の場所全てにおいて。無い場所が多く、一人だと困る時がある。

韓国人のコミュニティがあつたらうれしい。韓国語の案内をもっと増やしてほしい。

環境がきれいで交通も便利です。住み心地が良い町です。

にほんがだいすきです。にほんにながいがいじかんすみたいです。にほんじんにふれあうきかいがいっぱいほしいです。

市在住の外国人が、市役所主催の様々な行事に参加するよう、さらに奨励すべきだと思う。
市在住の外国人による定期的な集まりを開催し、意見交換を通じて改善点を改善などしていくべき。
緊急情報があれば、市在住の外国人に対しては、携帯電話（e-mail、LINE、等）を通じて共有すべき。

自分の子育てが終わったら地域や同じ国の人たちの育児等の手助けをサポートなどできる機会があれば参加したいと思っている。

お店が少ない。（飲食店や商店）

私が住んでいる場所は川ぞいで水害避難はできません

特に意見なし。ありがとうございます。

お疲れ様！入間は良い市です！！（英語）

生活がつまらなくて面白いことが見つからない。仕事では楽しくない、不公平。

日本に来て良かった。

入間市はとてもきれいなまちで生活しやすい環境です。お互い譲り合い、尊重しあい、私はこのまちがとても好きです。

定年後に参加したいと思っています。

やさしい、住みやすい、“和”のある入間市になっていただきたい。

外国人市民に手を差し伸べ、彼らの思い（懸念）に耳を傾ける入間市の努力にとっても感謝しています。どうもありがとうございます！

もっと通訳をしてくれる人がいると、もっと心強くなれます。もっとスムーズでいろんな交流ができると思います。

20年前と何も変わっていません。このアンケートも何度も書きました。印刷代もかかるので、オンラインでのアンケートが良いと思います。週末や夜、休日などに行われるボランティアではない、きちんとした先生による日本語教室を開いて欲しいです。入間市と狭山市の合併を再検討することはないですか。

私は入間市で日本人と結婚して満足です。

ごみ分別についてよくわからない。日本の文化の勉強会があってほしい。

アンケート調査をやってくれてありがとう。

自由記載欄：入間市は静かで平和です。近所の人たちで集まったりする機会があれば良いと思います。何か問題が起こった時に話し合ったり助け合ったりできるので、近所の人と知り合える機会があればなあと思います。私は日本語の文を読むのが得意でなく、夫は最近物忘れしやすくなってきました。なので、家に来る手紙などが2人とも読んだり理解ができないのです。何か日本語の文章を読んだり返信したりするのを手伝ってくれる機関があると良いのですが。近所の人と顔を合わせたり話したりする機会があると良いのですが。ありがとう。
Q12意見：医者が言っていることが理解できません。加えて、私が外国人だから説明すらしてくれません。血圧を測ってすぐに、外で待って薬をもらってくださいと言うだけです。血液検査を受けたときでさえ、何も説明しないのです。なので、時々病院は血圧を測ることしかしてないんじゃないかという気持ちになります。

入間市に住んでいる全ての期間で、提供されたサービスは全てとても良いもので、ここはすごく静かなところですよ。

仕事の情報を簡単にとることができますか。在留カードの更新手続きを受け付けてほしい。

日本料理教室を

生活費の援助などに期待しています。

(ローマ字表記で記載、一部不明) 入間ほそう (hosou) は外国人には難しいです。社会保険は中々入れられません。外国人の場合には、子どもが4年生になると学童に中々入れません、親が働くしても。

言葉がわからないことぐらい

日本は素晴らしい国で、とても暮らしやすいけれど、同時に物価がとても高い。
学齢の息子が三人おり、国や入間市役所による支援のおかげで月末まで暮らせているが経済的に厳しい。

入間市はとても美しいまち

外国人でも行きやすい運動場が欲しい。サッカーとかバレーボールとか。

金子駅の近くにサッカー場が欲しい

日本に来てまだ浅い外国の方、2~3年しか住んでない方。身の回りの日本の生活の事を教えればと思います。公共の使用、ごみなどの問題、無断で使用していけない場所。一例として、市報にのせて教えるとか。

在日ブラジル人との交流

入間市の生活はいつもおだやかで、環境もとても良いです。街はとてもきれいです。日本人に対する第一印象は親切で温かくて思いやりがあること。自分で体験したのですが、駅の場所がわからなくて迷子になったとき、若い日本人が助けてくれました。わざわざ駅までついてきてくれました。あの日本人に感謝の気持ちでいっぱいです。ビザの延長を願っています。可能なら日本にずっと住みたいです。日本が大好きです。ありがとうございます。

多くの外国人が活躍できることを希望します

住みやすい町ですが、昨年コロナのため仕事が少なく(80~90%オフ)、税金払うのが大変です。通訳のお仕事があれば教えてください。電話番号の記載

まずはこの調査の対象者にしてくれたことを感謝します。市役所から得られる利点や機会などを知ることができればうれしいです。私の知りたい情報は、市の提供する低価格の住宅(団地)の事です。ありがとう！

近所のひとや日本の友人が、違った文化や違った考え方を理解してくれるととても助かります。多くの場合、彼らは彼ら(日本人)の考え方が正しいと考え、その中で私たちを判断します。不幸なことに、入間市は差別については非常に悪いと思います。

やりたいこといっぱいあります。しごととかでいそがしすぎる。

知らず知らずに何年も経った。日常生活に特に不便はない、スーパーは近いから。ただ寂しいです。友達もないし、知り合いもないです。

「外国人だから」という偏見を仕事で強く感じます。

謝謝関心

入間での生活に満足しています。外国人に対して目を向けてくれていることに感謝を伝えます。私たちを受け入れてくれたことは私たちにとってとても価値のあることです。だからこそ、フィリピンの家族を助けるためにここで働く事ができ、学校に通うための（お金を）送ることができます。ここにいさせてくれてありがとう。3年間の労働契約を終えた後フィリピンに帰り、また戻ってきて再びここで働きたいです。

このような機会をありがとう。情報やその他のイベントを必要とする私たちの仲間にとっても良い助けになります。